

2018年3月期 決算説明会での質疑応答（5月11日開催）

2018年5月11日に開催した、証券アナリスト・機関投資家向け決算説明会において、出席者の皆様からいただいた主なご質問と、当社の回答を以下にまとめております。

質問

回答

2018年3月期実績について

2018年3月期が営業損失123億となった理由は何か。	第2四半期に計上した、米国キャメロンLNGプロジェクトの追加コストによる影響が大きい。
前年度に比べ未収金が増えている理由は何故か。	キャメロンLNGプロジェクトに関して、契約主体である米国子会社の連邦法人税等還付の未収と、イクシスLNGプロジェクトの発電設備サブコンに関する立替え分が主な理由である。
特別利益150億の内訳を教えてください。	第2四半期に計上した、EMAS Chiyoda Subsea社に関する関係会社事業損失引当金の戻りがメインである。

2019年3月期予想について

8,000億円の受注予想につき、その内訳を教えてください。	まず、LNG市況の回復に伴い、新規LNG案件がFIDに向けて動き始めていることから、モザンビーク・エリア1もしくは米国ゴールデン・パスのどちらかを期待し、LNG・ガス分野で4,000億円。エネルギーのその他分野(石油・化学・金属)で2,500億円、また伸展している地球環境エンジニアリング分野で1,500億円の受注を予想している。
2019年度3月期の利益が改善する理由は何か。	2018年3月期のような大幅なコスト増となる案件がないことから、全体を見直したところ2019年3月期は改善する見通しになっている。

ESGについて

CO2削減・廃棄物削減量の数値目標・施策を定めているか。	当社もESGに注力している。今はまだ数値目標を定めていないが、検討している。
女性従業員・管理職比率が低いですが、これからどのように高めていくのか。	いくつか取り組みを行っている。例えば、2020年までに新卒採用における女性比率を25%以上にする目標を定めている。
ガバナンスに関し、任意委員会を設置する計画などはあるか。	現在は監査等委員設置会社で、任意委員会設置の計画はない。現在、女性取締役の任命検討、独立社外取締役の増員など、一層のガバナンス強化の施策に取り組んでいる。

以上